

# 平成27年度 第2回生駒市子ども読書活動連絡調整会議 会議録（要約）

日 時： 平成28年2月25日（木）午後2時から

場 所： 図書会館 第二研修室

**【参加者】** 岩崎れい、森岡伸枝、平井富久子、森田桂子、藤波康幸、永島久伸、  
高橋信子

吉川祐一(吉村茂代理)

上田信行（現生駒市教育委員

平成16年～平成20年「生駒市子ども読書活動推進会議」会長）

(欠席) 島谷佳子、吉尾典子、真銅宏

**【事務局】** 向田真理子、松本芳樹、平澤佐千代、清水淳子、春名己容子（以上図書館）  
吉田久恵（生涯学習課）

上田教育委員より：生駒市の教育を変えていくのに図書館は大きな役割を担っている。  
今日は皆様の意見を聞かせていただいて、教育委員として自分ができることを考えてい  
きたい。

## 1 開会

## 2 案件

### (1)平成27年度事業報告について

#### ◎第1回会議（7月10日）

- ・生駒市子ども読書活動連絡調整会議の活動経緯の説明
- ・市内小中学校の学校図書館見学（案）の検討及び実施決定
- ・吉尾典子生駒幼稚園長（本会議参加者）による事例報告

#### ◎市内小中学校図書館見学（10月24日 鹿ノ台小学校・鹿ノ台中学校）

- ・鹿ノ台小学校：図書館見学と図書館を使った授業の見学
- ・鹿ノ台中学校：学校司書による活動報告
- ・両校司書教諭・学校司書を交えての質疑応答

#### ◎事業報告について参加者の感想

- ・小中それぞれの学校司書、司書教諭が、工夫を凝らしている様子がよくわかった。
- ・週2日、週3日勤務の学校司書がこれだけの事をやっていることに感心した。
- ・どこの学校へ行っても学校司書が入って図書館が良くなったと聞く。全ての学校に週3日入ってくれる方向になればよいと思う。

- ・学校司書のいる現場で図書館がどう変わっていくか。貸出冊数等の具体的数字を示すことが出来れば、行政も動かせるのではないか。
  - ・特色ある図書館運営にするためには、週2日勤務では厳しい。今は学校司書の個人の負担と、スクールボランティアの協力で成り立っている。
  - ・図書館を使った授業を見学して、子どもたちの生き生きした姿を見ることが出来て良かった。
  - ・具体的数値も大事だろうが、学校司書が入って図書館がよい方向に変わったというのは、目に見えない部分が多い。
  - ・授業で図書館を使う等の実績も記録し、目に見える成果を残していけばよい。
  - ・ブックトーク等の実施でも、利用は増える。学校司書も記録を取り、それぞれ努力している。
  - ・実際に2日から3日へ勤務が増えた学校では、2日ではやりきれなかったことが、3日になってこなせるようになってきた。学校司書がいることで、授業での司書による読み聞かせ、図書館を使った調べる学習等割り当てやすくなり、教職員からも高評価を得ている。
  - ・費用対効果は、一概に数字で見えるものではない。子どもたちの生き生きした表情が成果なのではないだろうか。図書館に学校司書がいることで起こる子どもたちの気持ちの変化を（行政に）訴えていければよいと思う。
  - ・読むことは楽しい、それを誰かに伝えたい、図書館に行けば何か楽しいことがある、読んだ本の感想を言い合える、会話が生まれる、となれば、新しい図書館像が見えてくる。
  - ・図書館で静かに本を読むだけでなく、本を媒介とした会話の場となればよい。
- ◎県PTA研究大会での研究発表（平群北小学校学校図書館の取組事例）紹介

## （2）平成28年度事業計画（案）について

以下、事務局からの提案

- ◎10月4日(火)、生駒市図書館で開催予定の脇明子さん講演会への参加と学習会  
→行事が多い時期なので、この会議の参加者としての出席は難しい。
- ◎第1回会議で報告があった「幼稚園から小学校への学校図書館訪問」の様子を見学
- ◎平成28年度、開園予定の「南こども園」、または小中一貫校となる「生駒北小中学校」を視察  
→まだ慌ただしい時期なので、次年度以降再検討
- ◎事業計画（案）について具体的意見
  - ・南こども園は、幼稚園児と保育園児が共に育つ生駒市初の教育・保育施設。同じ所で育つメリットを生かし、子どもたちが生き生きと楽しく通える園になるように準備中。
  - ・南こども園、生駒北小中学校、共に大変興味深いので、落ち着いたらぜひ見学したい。ボランティアの立場から協力もしていきたい。
  - ・環境が変わると子供たちも落ち着かない。1年ぐらいたいへんだろう。
  - ・幼稚園児の小学校図書館訪問は、これまであまりなかった取組だと思う。小学生から幼稚園児への読み聞かせ等があっても面白い。
  - ・小学校では、担任以外の教諭による読み聞かせ、高学年児童による下級生への読み聞かせ等を行っている。ボランティアのおはなし会は月2回昼休みに実施。天候によっ

て参加人数が変わってしまうが、これからも大事にしていきたい。公共図書館からは授業時間に来てもらっている。

- ・幼稚園に比べて、保育園と小学校との交流が少ないのが気になっている。
- ・小中学校だけではなく、幼稚園・保育園も交えた交流会ができればよい。

⇒「幼稚園から小学校への学校図書館訪問」の様子を見学するという事で、事務局で調整

#### ◎その他の意見

- ・南こども園は新しい建物なので、例えば廊下に絵本をずらっと並べて絵本ストリートを作る等すると面白い。子どもたちには美しさを五感で感じ、自然と手に取ってみたいくなる環境を与えたい。空間には力がある。
- ・三日月町の図書館には、長いところに絵本コーナーがあって素敵だなと思った。
- ・生駒駅前図書室では、「絵本でしりとり」のイベントをし、本を並べていった。子どもたちは集めた本を借りたがり、好評だった。
- ・色々なアイデアを参考に、どこにいても絵本を見れる環境、地域の力を借りて、新しい刺激的な楽しい空間を作ることが出来れば良い。
- ・ハンディキャップのある子への支援紹介（少年院、乳児院、院内保育特別支援学校へのサポート）
- ・図書館で知識を獲得し、それが新しい物を生み出す。多様な人と交流し、具体的に経験することが大事
- ・生駒市図書館は来年30周年、大きな転換期を迎える。図書館にはチャンスがあり、いろんなアイデアも得られる。不安を希望に変える、不安をチャンスと考えられると良い。
- ・IT化で本と図書館はどうなるのか？ITはツール。使いこなすことで出来ることも増える。パソコンも使い本も読む。
- ・これからの図書館はコミュニケーションセンター。単に静かに本を読む場所ではない。
- ・物理的に素敵な空間であることも大事。